

金 沢 大 学 計 算 機 セ ン タ ー

# 利 用 の 手 引 き

T S S 実 習 書 ( 全 般 用 )

T S S ユーザのための便利なコマンド ( その 2 )

執 筆 者      計 算 機 セ ン タ ー      講 師

車 古      正 樹

## はじめに

本手引きは下記の表に示すセンタコマンドについて説明する。本手引きの読み方については“その1”の“はじめに”を参照すること。

| コマンド名  | 機 能                             | 作成者      | 担当者   |
|--------|---------------------------------|----------|-------|
| FB     | フォートラン77のサブミットジョブストリームの作成と実行依頼。 | 車古       | 車古、山下 |
| D      | システム、センタパラメータ等の表示。              | 車古、山下、白山 | 車古、山下 |
| SOUDAN | 異常終了コードの内容解説。                   | 車古       | 車古、山下 |
| DS     | データセットに関する情報およびプリンタ出力。          | 車古、山下    | 車古、山下 |
| CHELP  | センタコマンドの使用方法表示。                 | 車古       | 車古、山下 |

なお、“その1”では以下のものについて説明してあるので参照すること。

| コマンド名            | 機 能   | 作成者 | 担当者   |
|------------------|---|-----|-------|
| FORT7CLG<br>およびF | FORTTRANプログラムの翻訳、結合編集、実行およびロード・ライブラリの登録を行う。 | 車古  | 車古、山下 |
| B                | バッチ入出力装置のためのジョブストリームを作成する。                  | 車古  | 車古、山下 |
| GDP              | 図形出力の検索を行う。                                 | 車古  | 車古、山下 |

## 第4章 FBコマンド (FORTRANプログラムのサブミット)

FORTRANプログラムにおいて実行時間が30秒以上要するものや、512KB以上のメモリを要するものは、サブミット・ジョブにより実行することが望ましい。このとき、当然のことながらサブミットのためのジョブストリーム(\*1)を作成しなければならない。FBコマンドは汎用的なサブミット用ジョブストリームを自動作成し、実行依頼を行う。

なお、文法エラーチェック、ロードライブラリの登録の仕方については第1章のFORTRAN 77コマンドあるいはFコマンドにより行うこと。

FBコマンドの形式を以下に示す。

FB 機能      データセット名      [JOB(...)] [R(...)] [CPU(...)]  
                 [JP(...)] [PMF(...)] [L(...)] [IN(...)] [OUT(...)]  
                 [SOC(...)] [PLOT(...)] [FILE(...)] [DA(...)] [LIST(...)]

### 4. 1 パラメータについて

パラメータの種類と意味については表4. 1を参照すること。

表4. 1 FBのパラメータの意味

|    | パラメータ   | 種別 | 意 味                        |
|----|---------|----|----------------------------|
| 1  | 機能      | 位置 | プログラムの実行のための機能を指定。         |
| 2  | データセット名 | 位置 | 実行を行うための入力データ (プログラム) の指定。 |
| 3  | JOB     | キー | JOB識別名・ジョブクラス・メッセージクラスの指定。 |
| 4  | R       | キー | リージョンサイズの指定。               |
| 5  | CPU     | キー | CPU時間を秒単位で指定。              |
| 6  | JP      | キー | 出力行数およびカード枚数の指定。           |
| 7  | PMF     | キー | コンパイラ・オプションの指定。            |
| 8  | L       | キー | 私用ライブラリの指定。                |
| 9  | IN      | キー | 入力データ (論理機番5) の指定。         |
| 10 | OUT     | キー | 出力 (論理機番6) 制御の指定。          |

表 4. 1 FBのパラメータの意味

|     |      |    |                                |
|-----|------|----|--------------------------------|
| 1 1 | SOC  | キー | ソースリストの出力制御の指定。                |
| 1 2 | PLOT | キー | プロットルーチンを使用する場合に指定。            |
| 1 3 | FILE | キー | ディスク、磁気テープあるいはフロッピィを使用する場合に指定。 |
| 1 4 | DA   | キー | ジョブストリームを変更および保存する場合に指定。       |
| 1 5 | LIST | キー | ジョブストリームを端末に表示する場合に指定。         |

注：種別はパラメータの種別であり、位置は位置パラメータ、キーはキーパラメータである。なお、こまかい説明は番号順に以下に示す。

- 1) 機能：プログラムの実行に際し、その機能を指定する。なお、機能には以下の4つがある。

機能のちがいは第1章を参照すること。

GO：コンパイルから実行までをメモリー上で行う。

CLG：コンパイル→リンク・エディット→実行を行う。

LOAD：相対形式のプログラムの実行を行う。

CALL：実行形式のプログラムの実行を行う。

- 2) データセット名：実行を行うプログラム用ファイルの指定を行う。

A) GO、CLG機能の場合はソースプログラムの入ったデータセット、LOAD、CALL機能の場合はロード・モジュールの入ったデータセットを指定。

B) データセットの入力形式は以下のものである。

・' ' '完全修飾名' ' '      ・@完全修飾名      ・ユーザ指定名      ・ユーザ指定名・内容  
識別修飾子

・上記に(メンバ名)を付したもの。

C) データセットを連結したい場合はスラッシュ (/) で区切る。

例えば、TSTPG. FORT77 (A) とTSTPG. FORT77 (B) を結合する場合は

TSTPG. FORT77(A) / TSTPG. FORT77(B)

とすれば良い。なお、

TSTPG(A) / TSTPG(B)

としても良い。

- 3) JOB(\* | ジョブ識別子・ジョブクラス・メッセージクラス)：サブミットする場合のJOB制御文を作成する。

A) 省略時：ジョブ識別子はS、ジョブクラスはCおよびメッセージクラスはXとなる。一般

形を以下に示す。

//AB9999S JOB /PASS=パスワード/CLASS=C/MSGCLASS=X

但し、教育実習の場合はジョブクラスはAとなる。なお、すでにAB9999Sのジョブが存在するならば別の識別子が自動的に与えられることに注意すること。

B) \* : 端末よりJOB制御文を入力する場合に指定する。

C) ジョブ識別子・ジョブクラス・メッセージクラス : 各々を指定された文字に置き換える。

例えばJOB(ACD)と指定した場合は

//AB9999A JOB /PASS=パスワード/CLASS=C/MSGCLASS=D

となる。

- 4) R(リージョンサイズ) : リージョンサイズの指定を行う。なお、省略時はジョブクラスの標準値となる。JOB(\*)の指定がある場合は無視される。リージョンサイズの大きさはKB単位で行う。例えばR(1024K)と指定する。
- 5) CPU(CPU時間) : CPU時間の指定を行う。なお、省略時はジョブクラスの標準値となる。また、JOB(\*)の指定がある場合は無視される。CPU時間の指定は秒または分単位で行う。例えば3分のとき、CPU(180)またはCPU(3M)と指定する。指定値がクラスの最大値を越えている場合は、その最大値が指定されたものとみなす。
- 6) JP('L=ライン行数/C=カード枚数') : ライン行数および出力カード枚数の指定を行う。なお、省略時はクラスの標準値となる。ライン行数は百行単位、カード枚数は1枚単位で行う。例えばライン行数を1万行とするときはJP(L=100)と指定する。
- 7) PMF('コンパイラオプションの並び') : プログラム用データセットがソースプログラムの場合にコンパイラオプションの指定を行う。省略時はシステムの持つ標準値(付録1の〔12〕参照)となる。
- 8) L(私用ライブラリ) : 私用ロード・ライブラリの指定を行う。なお、機能がCALLの場合は指定しても無視する。指定方法は2)のBと同様である。
- 9) IN(入力データの指定) : 入力データがある場合指定する。指定方法には以下の2通りがある。
  - A) \* : 端末に入力データの要求がくる。これ以後、入力データを入力する。なお、データの終了は/EOFを入力すれば良い。
  - B) 入力データセット名 : この場合の入力形式は2)のB)と同様である。なお、データを連結する場合はスラッシュで区切る。例えば、端末入力とTST, DATA(A) (但しブロックサイズは3120のとき)を結合する場合は以下のように  
IN('\*\_DCB=BLKSIZE=3120/TST.DATA(A)')  
と指定すること。なお、データセット内容識別修飾子がDATAの場合は省略可能である。
- 10) SOC(Z) : 出力としてソースプログラム、コンパイラリストおよびリンケージリストを出

力しない場合に指定する。なお、この場合のJOBログおよびSYSログは出力される。JOBログおよびSYSログも出力しない場合はJOBパラメータでメッセージクラスとして3あるいは4を指定すること。なお、メッセージクラスについては第2章を参照すること。

- 1 1) OUT(8 | 出力識別名) : 8を指定した場合は、日本語ラインプリンタに84行/ページとして出力。データセット名を指定した場合は、JOBログ、SYSログを除き、最寄りのプリンタに出力される。なお、メッセージクラスはYとなり、JOBログ、SYSログはSORPで参照可能である。なお、メッセージクラスYのジョブは翌日消去される。例えばOUT(XYZ)と指定した場合はAB9999, XYZ, OUTLISTとして出力される。
- 1 2) PLOT(論理機番) : プロットルーチンを使用するとき指定する。詳しくは4. 2を参照すること。
- 1 3) FILE(論理機番) : MT、DASD (ディスク) およびFLOPPYを使用するとき指定する。2個以上の場合はスラッシュで区切り指定する。詳しくは4. 3を参照すること。
- 1 4) DA(\* | データセット名) : ジョブストリームを保存する場合はそのデータセット名を指定する。このパラメータが指定された場合はジョブがサブミットされない。なお、JOBストリームを変更し、かつ保存する必要がない場合はDA(\*)を指定すること。この場合はこのコマンド入力後、EDITモードとなる。この後ジョブストリームを変更し、SUBMITサブコマンドを入力する。終了はEDITモード (FSの場合はPF3キーを押したのち) でENDを入力すること。
- 1 5) LIST(\*) : 作成されたジョブストリームリストを端末に出力する場合に指定する。

#### 4. 2 PLOTパラメータについて

PLOTパラメータはプロット用サブルーチンを使用する場合にその論理機番を2桁の数字で指定する。このパラメータが指定された場合はコマンド入力後以下のメッセージが表示される。

ENTER OUTPUT DEVICE (NLP | GDP | MMB | OFF) :

この後、NLP、GDP、MMBまたはOFFのいずれかの文字列を入力する。

NLP : プロット出力を日本語ラインプリンタに出力する場合。

NLPと入力した場合は以下のメッセージが出力される。

ENTER XY CONTROL STATEMENT

\* XY L=12,M=10,D=L

:

この後、XY制御文を入力すること。なお、XY制御文については第2章のPSPCNVを参照すること。

GDP : グラフィック・ファイルをGDPコマンドで検索する場合。

GDPと入力した場合は以下のメッセージが出力される。

ENTER DATA SET NAME(MEMBER NAME) :

この後、データセット名(メンバ名)を入力すること。なお、データセット名をONLINE、OUTLISTとした場合、GDPコマンドで検索し易い。GDPコマンドについて詳しくは第3章を参照すること。

MMB: PLOTSサブルーチンにメンバ名が指定されている場合。

MMBと入力した場合は以下のメッセージが表示される。

ENTER DATA SET NAME :

この後、データセット名のみを入力すること。

OFF: オフラインプロットファイルをMTに出力する場合。

この場合のラベルはLABEL=(1, NL)となることに注意すること。なお、日立精工の標準ルーチンを使用する場合はLパラメータでL(@SYS9.HCDSLIB)と指定すること。またcm系を使用する場合はL(@APPC.LINKLIB)を指定すること。

注: プロットについては第1章、第2章および第3章を参考にすること。

#### 4. 3 FILEパラメータについて

FILEパラメータの指定は論理機番7およびプロット機番以外のファイルを使用する場合に指定する。なお、いくつかのファイル指定がある場合はスラッシュで区切る。また、論理機番の指定は2桁の数字でなければならない。例えば、論理機番1は01と指定すること。

FILEパラメータが指定された場合に以下のメッセージが表示される。

ENTER UNIT NO.\*99\*: DASD | MT | FLOPPY | FORM | UNIFORM  
:

と出力され入力可能となったら、DASD、MT、FLOPPY、FORMまたはUNIFORMのいずれかを入力する。なお、99は論理機番でありおのおのについては以下に示す。

DASD: ディスクパックを使用する場合に指定すること。DASDと入力した場合は以下のメッセージが表示される。

ENTER DATA SET NAME :

この後、データセット名を入力すること。なお、データセットが新規の場合あるいは一時データセットの場合は以下の処理を続けること。アンダラインは入力を示す。

ENTER SPACE>(T1,T2<,T3>><,RLSE>

EXP1. (10,10),RLSE ...IF PS

EXP2. (10,10,5),RLSE ...IF PO

EXP3. (10,10,2), ...IF PO

:

スペース量をトラック単位で入力。例えば(10,5)RLSE

ENTER RECFM (FIFBIVSIVBS) : レコード形式を入力。例えばFB

ENTER LRECL(RECORD LENGTH) : レコード長を入力。例えば80

ENTER BLKSIZE(BLOCK LENGTH) : ブロック長を入力。例えば3120

注：なお、データセット属性について詳しくは付録1の〔10〕、〔11〕を参照すること。

MT：磁気テープを使用する場合に指定すること。MTと入力した場合は以下のメッセージが表示される。

ENTER LABEL NO./SLINL

EXP1. 1/NL ...IF NON LABEL

EXP2. 3/SL ...IF STANDARD LABEL :

この後、ラベル番号とラベル属性を入力すること。このときに標準ラベル(SL)を返答した場合は以下の処理を行うこと。ノンラベル(NL)の場合は以下の処理を行わない。なお、ボリューム通番とデータセット名共にユーザ課題名となるから注意すること。

ENTER VOL=SER :

ボリューム通番を入力。例えばAB9999

ENTER NEW I OLD :

新規の場合はNEWを入力、既存の場合はOLDを入力。例えばNEW

この後、ラベルがノンラベル(NL)の場合および標準ラベル(SL)でかつ新規(NEW)の場合は以下の処理を続行すること。

ENTER RECFM (FIFBIVSIVBS) : レコード形式を入力。例えばFB

ENTER LRECL(RECORD LENGTH) : レコード長を入力。例えば80

ENTER BLKSIZE(BLOCK LENGTH) : ブロック長を入力。例えば3120

FLOPPY：フロッピー・ディスクに出力する場合指定すること。FLOPPYと入力した場合は以下のメッセージが表示される。

ENTER DSID(FILE NAME) :

この後、フロッピーディスクに出力するためのファイル名を入力すること。なお、レコード長が80バイトになるので注意すること。

FORM：書式付入出力ファイルでディスクパックを使用する場合に指定すること。但し、データセットが新規のものの場合は順データセットに限る。FORMと入力した場合は以下のメッセージが出力される。

ENTER DATA SET NAME :

この後、データセット名を入力すること。なお、データセットが新規の場合はレコード形式がVB、レコード長が255バイト、ブロックサイズが3164となり、スペースは初期量10トラ



ック、増分量10トラックとなる。

**UNFORM**：書式無し入出力ファイルでディスクバックを使用する場合に指定すること。但し、データセットが新規の場合は順データセットに限る。UNFORMと入力した場合は以下のメッセージが出力される。

**ENTER DATA SET NAME :**

この後、データセット名を入力すること。なお、データセットが新規の場合はレコード形式がVBS、レコード長が32760、ブロックサイズが3164となり、スペースは初期量10トラック、増分量10トラックとなる。

#### 4. 4 FBコマンドの使用例

FBコマンドの各種パラメータの使用方法を説明するために、表4. 2に示す例を取り上げた。

表4. 2 FBコマンドの使用例

| 例   | パラメータ    | 内 容                                    |
|-----|----------|--|
| 例1  | JOB(ACX) | ジョブパラメータの指定方法と意味。                      |
| 例2  | IN,R     | 入力データのデータセットの指定とリージョンの指定。              |
| 例3  | CPU,R,IN | 入力データを端末より入力する場合とCPU, RおよびJOBパラメータの指定。 |
| 例4  | L,JP     | ライブラリ(サブルーチン)の結合と行数の指定。                |
| 例5  | PMF      | データセットの結合方法とコンパイラオプションの指定方法。           |
| 例6  | SOC,OUT  | 出力結果を少なくする方法。                          |
| 例7  | PLOT     | 図形出力を日本語ラインプリンタに出力する方法。                |
| 例8  | PLOT     | 図形の出力検索のためのグラフィックファイルの作成。              |
| 例9  | FILE,DA  | 磁気テープ入力、ディスク出力の例とジョブストリームをディスクに保存。     |
| 例10 | FILE,IN  | 端末よりデータ入力の一時データセットの使用方法。               |

例1. CPU時間を15分程度要するソースプログラム(AB. FORT77 (PRG1))のJOBクラスをDとしてサブミットする(但し、データはなし)。

FB CLG AB(PRG1) JOB(ADX)

・この場合のJOB文を以下に示す。

//AB9999A JOB /PASS=パスワード/CLASS=D/MSGCLASS=X

- ・すなわち、JOBパラメータのADXはAがJOB識別子、DがJOBクラスおよびXがメッセージクラスを表わす。なお、この例のようにAB.FORT77の内容識別修飾子(FORT77)は省略可能である。

例2. ロード・ライブラリにある実行形式のプログラム (AB. LOAD (PRG2)) を実行する。データはAB. DATA (DT1) を使用する。なお、リージョンサイズは1024KB必要である。

FB CALL AB (PRG2) IN (AB (DT1)) R (1024K)

- ・この場合のJOBクラスはCとなる。リージョンサイズは1024KBである。なお、論理機番5のリード命令 (READ (5, …) …) に対し、AB. DATA (DT1) が割り当てられる。また、この例のようにAB. LOAD、AB. DATAの内容識別修飾子は省略可能である。

例3. CPU10分、リージョン160KB以下のソースプログラム (AB. FORT77 (PRG3)) を実行する。なお、データは端末より与える。

FB GO AB (PRG3) CPU (600) R (512K) JOB (AC3) IN (\*)

- ・この場合はコマンド入力後、以下のメッセージが表示される。

ENTER INPUT DATA OR /EOF (END OF FILE)

:

- ・この後、データを入力すること。なお、データの入力が終了したならば/EOFを入力すること。
- ・GO機能を用いるかCLG機能を用いるかは第1章を参照すること。
- ・JOBログ情報とSYSログ情報を出力しない場合はこの例のようにメッセージクラスを3または4 (JOB (AC3)) と指定すること。
- ・GO機能を用いる場合はリージョンサイズがプログラムサイズより300KB程度大きくなることに注意すること。

例4. ソースプログラム (AB. FORT77 (PRG4)) を実行するに際し私用ライブラリ (AB. LOAD) より、サブルーチンを結合する。なお、出力が多い (5千行弱) ため行指定を行う。

FB CLG AB.FORT77 (PRG4) L (AB.LOAD) JP (L=50)

- ・この場合の行指定JP (L=50) は100行単位で行うこと。なお、サブルーチンについては私用

ライブラリの指定のみで良い。SSL2やPSP等については自動結合される。なお、L (AB, LOAD) はL (AB)としても良い。

例5. ソースプログラム (AB, FORT77 (PRG5)) とソースサブルーチン (AB, FORT77 (SB)) を結合し、配列のチェックと引数のチェックを行う。なお、クラスはCとする。

FB CLG AB (PRG5) /AB (SB) PMF ('DEBUG (SUBCHK, ARGCHK)')

- ・この場合ソースプログラムの結合を行っているが、ソースや入力データおよびライブラリの結合を行う場合は、この例のように/で区切り指定すること。なお、コンパイラオプションはPMFで指定すること。

例6. 完成したソースプログラム (AB, FORT77 (PRG6)) を実行する。但し出力は結果のみとし、1 ページに84行出力する。

FB CLG AB.FORT77 (PRG6) SOC (Z) OUT (8) JOB (AC4)

- ・この場合のSOC (Z) はソース・コンパイラ・メッセージおよびリンケージ・エディタ・メッセージを出力しない指定であり、OUT (8) は日本語ラインプリンタの出力を84行/ページとする指定である。

例7. NLPに図形を出力するためのソース・プログラム (AB, FORT77 (PRG7)) を実行する。入力データはAB, DATA (DT7) を使用する。

FB CLG AB.FORT77 (PRG7) IN (AB.DATA (DT7)) PLOT (16)

- ・この場合はコマンド入力後、以下のメッセージが表示される。なお、PLOT (16) の16はPLOTS (X, Y, 16) の場合の論理機番である。

ENTER OUTPUT DEVICE (NLPIDPIMMBIOFF) :

- ・NLPと入力すること。この入力後、以下のメッセージが表示される。

ENTER XY CONTROL STATEMENT

\* XY L=12, M=10, D=L

:

- ・XY制御文を入力すること。詳しくは第2章PSPCNVを参照すること。

例8. 図形出力をグラフィックディスプレイで検索するためソースプログラム (AB. FORT77 (PRG8)) を実行する。

FB CLG AB.FORT77 (PRG8) PLOT (16) R (1024K)

- ・この場合はコマンド入力後、以下のメッセージが表示される。

ENTER OUTPUT DEVICE (NLP I GDP IMMB I OFF) :

- ・GDPと入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER DATASET NAME (MEMBER NAME) :

- ・ONLINE. OUTLIST (GDP8) と入力する。

なお、このグラフィックファイルを検索する方法については第3章GDPコマンドを参照すること。

また、NLPの出力方法は第2章のGDPCNV機能を参照すること。

例9. ソース・プログラム (AB. FORT77 (PRG9)) を実行するにあたり、磁気テープ (論理機番1) よりデータを読み、ディスク (論理機番30) の既存のデータセットOUT. DATAに出力する。なお、ジョブストリームはAB. CNTL (MTTODA) に作成する。

FB CLG AB (PRG9) FILE (01/30) DA (AB. CNTL (MTTODA))

- ・この場合はコマンド入力後、以下のメッセージが表示される。

ENTER UNIT NO. \*01\* : DASD | MT | FLOPPY | FORM | UNFORM :

- ・入力可になったら機番01に対してはMTと入力する。すると次のメッセージが出る。

ENTER LABEL NO. /SL INL

EXP1. 1 /NL...IF NON LABEL

EXP2. 3 /SL...IF STANDARD LABEL :

- ・標準ラベルの1番目である場合は1 /SLと入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER VOL=SER :

- ・ボリューム通番がAB9999の場合はAB9999と入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER DATA SET NAME :

- ・データセット名がDATA09の場合はDATA09と入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER NEW IOLD :

- ・OLDと入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER UNIT NO.\*30\* : DASD | MT | FLOPPY | FORM | U  
NFORM :

- ・30に対してはDASDと入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER DATA SET NAME :

- ・OUT.DATAと入力する。

ジョブを実行する場合はAB. CNTL (MTTODA) をサブミットすれば良い。

例10. 実行形式のプログラム (AB. LOAD (PRG10)) を実行するにあたり、一時データセット (論理機番3) を使用する。なお、入力は端末で作成する。

FB CALL AB.LOAD (PRG10) IN(\*) FILE (03)

- ・この場合はコマンド入力後、以下のメッセージが表示される。

ENTER INPUT DATA OR /EOF (END OF FILE)

:

- ・データを入力する。データの入力終了後、/EOFを入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER UNIT NO.\*03\* : DASD | MT | FLOPPY | FORM | U  
NFORM :

- ・DASDと入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER DATA SET NAME :

- ・&&WORK03と入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER SPACE : (T1,T2<,T3><,<RLSE>

EXP1. (10,10),RLSE ...IF PS

EXP2. (10,10,5),RLSE ...IF PO

EXP3. (10,5,2) ...IF PO :

- ・(10,10)と入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER RECFM (F|FB|V|S|VBS) :

- ・VBSの場合はVBSと入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER LRECL (RECORD LENGTH) :

- ・レコード長が400バイトであるならば、400と入力する。この後、以下のメッセージが表示される。

ENTER BLKSIZE (BLOCK LENGTH) :

- ・12008と入力する。

\*1 フォートランのジョブストリームについて

FORTRANをバッチで処理するには、ジョブ制御文を付け依頼しなければならない。例えば例7のジョブをサブミットするには、内容識別子がCNTLのデータセットに以下のようにジョブストリームを作成し依頼しなければならない。

READY

E EXP(JCL7) CNTL NEW

00010 //AB9999S JOB ,PASS=パスワード,CLASS=B

00020 // EXEC FORT7CLG

00030 //FORT.SYSIN DD DSN=AB9999.AB.FORT77(PRG7),  
DISP=SHR

00040 //GO.SYSIN DD DSN=AB9999.AB.DATA(DT7),DISP=SHR

00050 //GO.FT16F001 DD DSN=&&PSPCNV,DISP=(NEW,PASS),

00060 // UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(10,10))

00070 // EXEC PSPCNV

00080 //SYSIN DD \*

00090 \* XY L=12,D=L

00100 /\*

00110 //

00120 エンタキーを押す

E

SUB

なお、FBコマンドを使用した場合は以下ようになる。

FB CLG AB(PRG7) IN(AB(DT7)) PLOT(16)

ENTER OUTPUT DEVICE(NLP | GDP | MMB | OFF): NLP

ENTER XY CONTROL STATEMENT

\* XY L=12,M=10,D=L

:

\* XY L=12,D=L

ジョブ制御文については付録1の〔3〕,〔12〕,〔15〕,〔17〕を参照すること。

## 第5章 Dコマンド（ディスプレイコマンド）

センタコマンドDは、ユーザが以下の項目を参照出来るよう開発したものである。

- 1) システムに関する情報
- 2) ユーザ管理ファイルの情報
- 3) 運用パラメータに関する情報

Dコマンドの形式を以下に示す。

### D 機能

なお、機能については表5. 1に示す。

表5. 1 Dコマンドの機能

| 機 能            | 内 容                  |
|----------------|----------------------|
| <u>U</u> SER   | 利用者管理ファイルの情報表示。      |
| <u>C</u> HARGE | 利用者またはグループの年間使用状況。   |
| JOB            | ジョブクラスのパラメータ表示。      |
| TSS            | ユーザに対するTSSの内容表示。     |
| Q              | システムのジョブ件数情報。        |
| I              | システムのサービス中のジョブクラス情報。 |
| J              | 現在実行中のバッチJOBと入力時間。   |
| T              | 現在使用中の端末と利用者表示。      |
| <u>N</u> EW S  | 保守日等の表示。             |

### 5. 1 USER機能

USER機能はユーザのデータセット、アカウントおよびジョブについての表示を行う。

入力形式を以下に示す。

D USER [ .D ] [ .V ] [ .A ] [ .J ]

上記の [ ] 内の .Dはユーザのデータセット名の表示、.VはデータセットのVTOC情報の表示、.Aはユーザのコントロール情報の表示および.Jは滞在ジョブの表示を行う。

なお、指定は必要な数だけ可能である。D U.S.Dと入力した場合は、Dが指定されたものとみなす。

例1 D U.Dと入力した場合は図5. 1が表示される。

なお、LISTC

コマンドで表示さ

れ、このコマンド

で表示されないも

のは翌日消去され

る。したがって、

データセットの多

いユーザ（9～1

0個）はTSS終了直前でこのコマンドにより確認すること。

```
D U,D
AB9999
--DSNAME-----VOLUME---SPACE(TRK)--
JCLLIB.CNTL      USER05      1
TEST.FORT77      USER05     11
KANJI.DATA       USER05     10
**TOTAL SPACE          -      22
```

図5. 1 データセット名とトラック量の表示

例2 D U.Vと入力した場合は図5. 2が表示される。なお、この図中のEMPTYやEXTENTの多いものについては第7章DSコマンドのCOMP機能で圧縮すること。

```
D U,V
AB9999.JCLLIB.CNTL
--VOLUME-RECFM-LRECL-BLKSIZE-DSORG-SPACE-EMPTY-UNIT-EXTENT--
USER05 FB      80      3120 PO      1      0 TRK      1
AB9999.TEST.FORT77
--VOLUME-RECFM-LRECL-BLKSIZE-DSORG-SPACE-EMPTY-UNIT-EXTENT--
USER05 FB      80      3120 PO     11      9 TRK      1
AB9999.KANJI.DATA
--VOLUME-RECFM-LRECL-BLKSIZE-DSORG-SPACE-EMPTY-UNIT-EXTENT--
USER05 FB      80      3120 PO     10      9 TRK      1
```

図5. 2 データセットのVTOC表示

例3 D U.A.Jと入力した場合は図5. 3が表示（図中の上9行がD U. Aであり、下3行がD U. Jによる表示）される。なお、このユーザ・コントロール・ファイルにより利用資格のチェックを行っているので確認すること。

## 5. 2 CHARGE機能

CHARGE機能はユーザあるいはグループの過去一年間の使用状況および料金の表示を行う。この表示により講座料金の管理が可能である。なお、料金引き去りは2月以後次年度となる。入力形式を以下に示す。



```

D U.A.J
AB9999
--IHBIT-LOWDY--UPRDY-MGCLS-SORTC-CNTRL-ACLAS-TSS-DSF-DS-JBCLS--
  0 810406 820330      AA 4000  A  2  1  1 ABCDEGH
--MXCRG---MXJOB---MXCPU-MAXDS---MXSPC-MXSJB---      --LECID----
200000      1000 1000000      10      200      20
--USCRG---EXJOB---EXCPU-USEDs---USSPC---      --LOSCG-LOSJB---CONSM---
  6994      76 137678      3      22      0      0      0
--REMAINDER--
193006 YEN
AB9999
--EXISTING ---A---B---C---D---E---F---G---H---TOTAL--
      JOBS  NOTHING

```

図5. 3 利用者管理ファイルの表示

#### D CHARGE (.G) [PR(YES)]

なお、.Gが指定された場合はグループに関する表示である。また、PR (YES) を指定した場合は最寄りのプリンタに出力する。

例 D C.Gと入力した場合は図5. 4が表示される。なお、データセット料金は消耗品代に含む。

```

D C.G
***BATCH DATA(+NLP CHARGE)**      ****TSS DATA(+DSP CHARGE)***      *SYQMO*
MN KENSU  ELAPS  CPUTM  CHARGE  KENSU  ELAPS  CPUTM  CHARGE  CHARGE
 2  57    1H26M   713S   4.687   26  31H 6M   363S   3.936   170
 3  0     0H 0M    0S     0     0  0H 0M    0S     0     0
 4  0     0H 0M    0S     0     0  0H 0M    0S     0     0
 5  43    3H46M  4863S  13.332  19  5H31M   257S   3.353   282
 6  0     0H 0M    0S     0     0  0H 0M    0S     0   181
 7  0     0H 0M    0S     0     0  0H 0M    0S     0   356
 8  4     0H48M   1043S  4.283   3  0H24M    12S    272   516
 9  0     0H 0M    0S     0     0  0H 0M    0S     0   343
10  7     0H 6M    9S     3.954   1  0H55M    10S    299   340
11  5     0H 5M    5S     905     2  0H36M    11S    186   297
12  88    1H23M   297S   2.706   23 12H26M   463S   2.274   143
 1 163    6H55M   3050S  12.891  17 23H29M   664S   3.421   241
      CHARGE SUM ----- ¥      59.368

```

図5. 4 使用状況と料金表示

### 5. 3 JOB機能

JOB機能はバッチJOBの各種パラメータの表示を行う。

入力形式を以下に示す。

D JOB [ .A ] [ .B ] [ .C ] [ .D ] [ .E ] [ .G ] [ .H ] [ .I ] [ .J ]

なお、D JOBと入力した場合はすべてのクラスを表示する。なお、[ ] 内はジョブクラスであり必要な数だけ指定できる。

例1 D JOBと入力した場合は図5. 5が表示される。この表示により適当なクラスを決めサブミットすること。

```

D JOB
STAYING JOBS   A= 0      B= 0      C= 0      D= 0      E= 0      . . .
* A *
                MAX PAGE :   60          MT UNIT = 0
                CPU(S) REGION(K)  LINE/100      CARD
STANDARD :      10          256          5          0
                MAX :      30          1024        30          500
* B *
                MAX PAGE :   400          MT UNIT = 1
                CPU(S) REGION(K)  LINE/100      CARD
STANDARD :      60          256          25          500
                MAX :      180         1024         200        5000
* C *
                MAX PAGE :   400          MT UNIT = 1
                CPU(S) REGION(K)  LINE/100      CARD
STANDARD :      300         256          25          500
                MAX :      900         1024         200        5000
:
:

```

図5. 5 ジョブクラスパラメータ表示

例2 D JOB.Dと入力した場合は図5. 6が表示される。

```

D JOB.D
STAYING JOBS   A= 0      B= 0      C= 0      D= 0      E= 0      F= 0
* D *
                MAX PAGE :   400          MT UNIT = 1
                CPU(S) REGION(K)  LINE/100      CARD
STANDARD :      1500         512          50        2000
                MAX :      3600        1536         200       10000
* TABLE *
                1           2           3           4           5
                CPU(S)      3600        2400        1440         960         600
                REGION(K)   256          512          768        1024        1536
ACCEPT TIME (PRIORITY) = INPUT TIME + STAYING JOBS * 180 (M)

```

図5. 6 クラスの詳細情報表示

図5. 6は図5. 5よりパラメータが多く表示されるので、REGIONやTIMEを決めるには、この例のようにクラス別に表示すべきである。なお、図のACCEPT TIMEは入力時間にそのクラスの滞在ジョブ数（実行待ち、実行中および出力待ちのジョブすべて）に重

みを乗算したものを加える。従って、同一のクラスのJOBを複数個依頼した場合は、ジョブ数に重みを乗算した時間だけ遅れて入力したものとみなされるので注意すること。

#### 5. 4 TSS機能

TSS機能はユーザが使用できる大きさや時間およびサブミットした場合のJOBのデフォルト値が表示される。

入力形式を以下に示す。

##### D TSS

例 D TSSと入力した場合は図5. 7が表示される。

##### D TSS

```
YOUR TSS CLASS = B
LOGON PROCEDURE :   KEQACCNT   LOGPROC1   LOGPROC2
STANDARD REGION :   512KB           MAX REGION :   1024KB
STANDARD CPU :     120S           MAX CPU :     300S
MAX ELAPS :        180M           USER UNIT :   SYSDA
COMMAND : ACCOUNT:NO OPERATER:NO SUBMIT:YES MT MOUNT:NO
DEFAULT CLASS      : HOLD:X      JOB:B MESSEGE:X SYSOUT:X
```

図5. 7 TSSセッションパラメータ表示

#### 5. 5 Q機能

Q機能は現在のシステムの状態を表示する。

入力形式を以下に示す。

##### D QUEUE

例 D Qと入力した場合は図5.

8が表示される。

なお、図中の3 JOBSは実行

中のバッチジョブが3件、15

TSUSは使用中のTSSユーザが15人、6 XEQは実行待ちのバッチジョブが6件、31 PPUは出力待ちのジョブが31件、およびB - - - -は各クラスの実行待ちジョブ数である。ジョブの待ち時間を知る参考にする。なお、詳しいジョブ実行待ち順位について知りたい場合はD WTJOBと入力すること。

##### D Q

```
---ACTIVE-----WAITING-----
003 JOBS      006 XEQ   031 PPU
015 TSUS      B=001.C=002.D=003
```

図5. 8 ジョブ・キューの表示

#### 5. 6 I機能

I 機能は現在のバッチジョブを起動するイニシエータの状態を表示する。  
 入力形式を以下に示す。

#### D INIT

例 D Iと入力した場合は図5. 9が表示される。

なお、図中のSTA

TUSがCLOSE

Dならば稼動不可、

BUSYならば稼動

中およびACTIV

Eならば稼動待ち

(空き)を表わす。

また、CLASSが

CABとなっている

場合は実行待ちのジ

ョブCがあればCを、

なければAを、AもなければBを実行することを表わす。京大にジョブを依頼する場合は、H、Gがサービス中(ACTIVE又はBUSY)であることを確認すること。

| <u>D INIT</u>   |     |                |             |
|-----------------|-----|----------------|-------------|
| -----TODAY----- |     | -----TIME----- |             |
| 82.03.24        |     | 13:43:48       |             |
| ---INITIATER--- | --- | STATUS         | ---CLASS--- |
| 1               |     | CLOSED         | ABF         |
| 2               |     | BUSY           | CAB         |
| 3               |     | BUSY           | DCB         |
| 4               |     | BUSY           | ECD         |
| 5               |     | ACTIVE         | AJB         |
| 6               |     | ACTIVE         | FA          |
| 7               |     | ACTIVE         | H           |
| 8               |     | ACTIVE         | G           |
|                 |     |                | KYOTO       |
|                 |     |                | KYOTO       |

図5. 9 イニシエータの表示

### 5. 7 J機能

J機能は実行中のバッチジョ  
 ブ名、クラスおよび入力時間を  
 表示する。

入力形式を以下に示す。

#### D J

D Jと入力した場合は図5.

10が表示される。

なお、図中のIN/TIME

は入力時間であり、ジョブのアクセプト時間ではないことに注意すること。

| D J         |          |            |       |     |          |     |          |     |
|-------------|----------|------------|-------|-----|----------|-----|----------|-----|
| ---TODAY--- |          | ---TIME--- |       |     |          |     |          |     |
| 82.03.24    |          | 13:53:39   |       |     |          |     |          |     |
| ---JOB---   |          |            |       |     |          |     |          |     |
| 003         |          |            |       |     |          |     |          |     |
| ---         | JOBNAME  | ---        | CLASS | --- | IN/DATE  | --- | IN/TIME  | --- |
|             | AB1048A  |            | C     |     | 82.03.24 |     | 13:53:02 |     |
|             | AB1957SK |            | B     |     | 82.03.24 |     | 13:53:15 |     |
|             | AB0985B  |            | D     |     | 82.03.23 |     | 18:25:10 |     |

図5. 10 実行中のジョブ表示

### 5. 8 T機能

T機能は現在TSSを使用中のユーザ名と端末名を表示する。

入力形式を以下に示す。

D T

例 D Tを入力した場合は図5. 1 1が表示される。

```
D T
--TODAY-----TIME-----
 82.03.24   14:07:29
--TSU--
 009
--USERID--START-----ELAPS-----CLASS--TERMINAL-GROUP-ROOM--LECTURE--
AB0191   13:22:27   00:45:01    2    TC9526#2    C1    1
AB0192   13:52:28   00:15:00    2    TC6652#2    KJ    2
JM0190   12:18:45   01:48:43    3    TC6652#3    KJ    2
CC1340   13:52:35   00:14:53    4    TC9526#7    C1    2
AB1037   12:34:31   01:32:57    2    TC9526#9    C1    1
AB1682   13:28:44   00:38:44    2    TC9526#H    C1    1
AB0325   13:52:02   00:15:26    2    TK9526#6    K1    K
AB1342   13:49:42   00:17:46    2    TR9526#3    R1    2
AB1048   13:55:19   00:12:09    2    TK9526#C    K2    D
```

図5. 1 1 使用中のT S Sユーザ表示

なお、図中のGROUPがC 1～C 3およびK Jはセンタの端末、K 1, K 2は工学部の端末、Y 1, Y 2は宝町の端末、R 1は城内端末である。なお、ユーザ名まで知りたい場合はD TUSERと入力する。

## 5. 9 NEWS機能

NEWS機能は計算業務の休止（保守日等）を表示する。

入力形式を以下に示す。

D NEWS

例 D Nと入力した場合は図5. 1 2が表示される。

```
D N
NEWS                DATE 82.03.24   TIME 14.11.04
***  3/31 YORI 4/3  MADE SHINKI  IREKAE NOTAME YASUMIMASU  ***
```

図5. 1 2 ニュースの表示

## 第6章 SOUDANコマンド（相談コマンド）

SOUDANコマンドはエラーがあった場合の問い合わせを行う。なお、その表示には次の3種類がある。

- 1) 直接エラーの内容を表示する。
- 2) 参照すべきマニュアルを表示する。
- 3) エラーの対処方法を表示する。

SOUDANコマンドは以下の入力形式である。

SOUDAN [KEY(キーワードの並び)]

- ・KEYパラメータは省略可能である。省略された場合は図6. 1が表示される。なお、複数個のキーワードを指定する場合は/で区切ること。

このとき、キーワード、END

またはHELP

の入力が可能で

ある。なお、相

談システムの表

示は"（ダブルクォート）でくくったものは、英文またはシステムコード等であり、その他はローマ字である。

- ・相談可能なキーワードはHELPを入力することにより知る。HELPを入力した場合は図6. 2が表示される。

```
SOUDAN O HAJIMEMASU "KEY" WA 8MOJI INAI DESU  
NAO "KEY" O SHIRITAI BAAI WA "HELP" O IREYO  
SOUDAN >> "KEY" O IREYO NAO OWARI WA "END":
```

図6. 1 相談の最初の表示

### SOUDAN KEY(HELP)

KEY : HELP

|        |        |          |          |        |        |
|--------|--------|----------|----------|--------|--------|
| ATF    | ATF#1  | CODE     | INTJ23E  | JAA    | JAA703 |
| JBB    | JBB030 | JBB032   | JBB141   | JBB147 | JBB149 |
| JBB217 | JDJ242 | JDJ686   | JOBCLASS | JQA013 | JQB    |
| JQB104 | JQB114 | JZB      | JZB036   | JZB040 | JZK    |
| JZL    | JZL240 | KEQ      | S        | SAS    | SB14   |
| SB37   | SE37   | S0C1-0C8 | S0C4     | S0C4#1 | S0C4#2 |
| S004   | S013   | S106     | S322     | S722   | S806   |
| S922   | TSS    | TSSERROR |          |        |        |

SOUDAN OWARI

図6. 2 キーワードHELPの表示

上記に出力されたキーワードを入力した場合に、その解答が得られる。もし、ユーザが知りたいキーワードがない場合はセンターに相談下さい。なお、上記に表示されていないキーワードで必要と思われるものは入力下さい。後日、そのキーワードについて登録する。

・キーワードとしてSを入力した場合は図6. 3が表示される。

```
S : "SYSTEM ERROR" DESU -- "SYSTEM MESSAGE" SHIYOTEBIKI SANSYO
"S0C1 - S0C8" WA "PROGRAM" NO AYAMARI DESU <NEXT : S0C4>
"S322" WA "CPU TIME OVER" DESU <NEXT : S322> ; "S222" WA "CANCEL" DESU
"S722" WA "LINE COUNT OVER" DESU <NEXT : S722> ; "S806" WA <NEXT : S806>
```

図6. 3 キーワードSの表示

上記表示中の<NEXT:S322>などは終了コードがS322であるならば、キーワードとしてS322を入力した場合に、その詳細なメッセージが得られることを意味する。

・キーワードとしてENDを入力した場合は図6. 4が表示される。

メッセージが理解出来た場合は

OK、理解出来なかった場合は

NOと答えること。なお、この

結果は相談システムの参考資料

とするので、正しく答えること。

```
RIKAI DEKITA BAAI "OK" :
WAKARANAKATTA BAAI "NO" O IREYO :
```

図6. 4 終了時の表示

・FORTRANを実行し、JZL240のエラーメッセージがあり、しかも終了コードがS0C4である場合は、KEYパラメータを使用し、以下のように入力すること。

**SOUDAN KEY(JZL240/S0C4)**

この場合は図6. 5が表示される。

```
KEY : JZL240
"FORTRAN" NO JIKOUJI "ERROR" NI YORU UCHIKIRI ;
"CODE=S..." NO BAAIWA "S" O SANSYO <NEXT : S>
"JZL240" IGAI NO "JZL999" GA ARUBAAI WA "FORTRAN 77" SHIYOU TEBIKISHO
O SANSYO SEYO
KEY : S0C4
"PROGRAM" JIKKOUCHU MEIREIBU O HAKAISHITA TUGINO KOMOKU O SHIRABEYO
HAIRETU NO TAIYOU (TEIGI YORI JISSAINO SOEJIGA KOETE INAIKA) GA TADASHIIKA ?
HIKISU NO TAIYOU (JITUHIKISU TO KARIHIKISU GA ONAJI KATAKA) GA TADASHIIKA ?
"COMMON" NO TAIYOU NI AYAMARI GA NAIKA ? <NEXT : S0C4#1>
SOUDAN OWARI
```

図6. 5 KEYパラメータを指定した場合の表示

## 第7章 DSコマンド（データセットおよびプリンタコマンド）

DSコマンドはユーザのデータセットを取り扱い易くなるよう開発したものである。コマンドは以下のように入力する。

### DS 機能 [/パラメータの並び]

なお、機能については表7. 1に示す。

表7. 1 DSコマンドの機能

| 機 能        | 意 味                                 |
|------------|-------------------------------------|
| VTOC       | データセットのボリューム情報（容量と空き、レコード形式等）を表示する。 |
| COMP       | データセットを圧縮（容量を最小限に）する。               |
| DUMP       | メンバ名の表示及びメンバ名の内容の表示をする。             |
| PR. DUMP   | プリンタにメンバ名の出力及び内容の出力をする。             |
| PR. PRINT  | プリンタに出力要求を行う。                       |
| PR. CANCEL | プリンタ出力要求のキャンセルを行う。                  |
| PR. STATUS | プリンタ出力要求の表示を行う。                     |

### 7. 1 VTOC機能

VTOC機能はデータセットのボリュームテーブルの情報（大きさ、空き、レコード情報等）を表示する。

入力形式を以下に示す。

#### DS VTOC [/KEY]

KEY：データセットを選択するための文字列を指定。省略時はユーザ管理ファイル中のすべてのデータセットについて表示する。

例 データセットTEST. FORT, PRG. FORT77, PRG. DATAがあり、TEST. FORTとPRG. FORT77について表示するには以下のように入力すること。



## DS V/FORT

なお、出力については図5. 2を参照すること。

### 7. 2 COMP機能

データセット容量を最小限に圧縮する。

入力形式を以下に示す。

**DS COMP [/KEY]**

KEY:データセットを選択するための文字列を指定。省略時はすべてのデータセットについて圧縮する。

例 フォートランに関するデータセットを圧縮する。

**DS COMP/FORT**

### 7. 3 DUMP機能

メンバ名の表示、あるいはいくつかのデータセットの複数のメンバの内容表示を行う。

入力形式を以下に示す。

**DS DUMP [/KEY [/LINE [/AS [/AE]]]]**

あるいは

**DS MEMBER [/KEY [/LINE [/AS [/AE]]]]**

KEY:データセットを選択するための文字列の指定、省略時はすべてのデータセットを対象とする。

LINE:対象となるデータセットの内容を表示する行数を指定、省略時は0とみなす。なお、0の場合は、データセット名とメンバ名の表示を行う。

AS/AE:メンバ名を選択するための文字列を4文字以内で指定する。なお、メンバ名の選択はアルファベット順で行う。省略時は、ASはA、AEはZZZZとみなす。また、ASを指定しAEを省略した場合はAEをASと同一とみなす。

例1 PRG. FORT77とPRG. DATAのメンバ名を表示するには以下のように入力する。

図7. 1が表示される。

**DS M/PRG**

例2 表示中のPRG. FORT77のメンバPLOT, PLOTH, PLOTMの内容を5行表示するには以下のように入力する。図7. 2が表示される。

#### DS M/PRG

```
KEY = PRG   LINE =      0
DATA SETS NAME : AB9999.PRG.DATA
MEMBER NAME   :
    1 FIOSUB      2 IPFFIO      3 IPFMIO      4 REI21      5 REI2
    6 TEST
DATA SETS NAME : AB9999.PRG.FORT77
MEMBER NAME   :
    1 A           2 B           3 C           4 D           5 LIST
    6 P           7 PLOT        8 PLOTH        9 PLOTM       10 SIN
DS DUMP ENDED
READY
```

図7. 1 メンバ名の表示例

#### DS D/PRG.FORT/5/PLOT

#### DS D/PRG.FORT/5/PLOT

```
KEY = PRG.FORT   LINE =      5
DATA SETS NAME : AB9999.PRG.FORT77

MEMBER NAME      :   PLOT
00010            SUBROUTINE PLOT
00020            PRINT *, 'MY NAME IS PLOT'
00030            RETURN
00040            END
END OF FILE

MEMBER NAME      :   PLOTH
00010            SUBROUTINE PLOT
00020            PRINT *, 'MY NAME IS PLOT'
00021            CALL PLOTX
00030            RETURN
00040            END

MEMBER NAME      :   PLOTM
00010            PRINT *, 'TEST PLOT'
00020            CALL PLOT
00030            END
END OF FILE
DS DUMP ENDED
```

図7. 2 内容の一部表示

## 7. 4 PR. DUMP機能

メンバ名の出力、あるいはいくつかのデータセットの複数のメンバの内容を最寄りのプリンタに出

力する。

入力形式を以下に示す。

DS PR.DUMP [/KEY [/LINE [/AS [/AE] ] ] ] ]

あるいは

DS PR.MEMBER [/KEY [/LINE [/AS [/AE] ] ] ] ]

あるいは

PR DUMP [/KEY [/LINE [/AS [/AE] ] ] ] ]

あるいは

PR MEMBER [/KEY [/LINE [/AS [/AE] ] ] ] ]

なお、パラメータや出力形式は7. 3 DUMP機能を参照すること。

## 7. 5 PR. PRINT機能

データセットの内容を最寄りのプリンタに出力する。

入力形式を以下に示す。

DS PR.PRINT [/KEY [/AS [/AE] ] ] ]

あるいは

PR PRINT [/KEY [/AS [/AE] ] ] ] [PR(YES)]

KEY: データセットを選択するための文字列の指定。なお、内容識別修飾子がOUTLISTの場合はユーザ指定名、OUTLISTと指定すること。区分データセットの1メンバをプリントする場合はユーザ指定名、内容識別修飾子 (メンバ名)で指定すること。なお、省略時は、すべてのデータセットとなる。

AS/AE: 区分データセットのメンバ名を選択する場合指定すること。詳しくは7. 3を参照すること。

PR(YES): プリントコマンドを変更、取り消しを行う場合に指定すること。PR(YES)が指定された場合は発行すべきコマンドが表示される。このときにエンター・キーを押せばコマンドを発行、NOと入力すれば取り消し、コマンドを入力すれば入力コマンドを実行。

例1 TEST. FORT77 (PRG1) をプリンタ出力するには以下のように入力する。

PR P/TEST.FORT77(PRG1)

例2 TS1. OUTLISTをプリンタ出力するには以下のように入力する。

PR P/TS1.OUTLIST

```

READY
PR P/TEST.FORT77/P PR(YES)
DSPRINT 'AB9999.TEST.FORT77(P)' PC03 NOTIFY EJECT
ENTER "COMMAND" OR HIT(RETURN) WHEN EXECUTE."NO" WHEN NOT EXECUTE
NO
DSPRINT 'AB9999.TEST.FORT77(PLOT)' PC03 NOTIFY EJECT
ENTER "COMMAND" OR HIT(RETURN) WHEN EXECUTE."NO" WHEN NOT EXECUTE
エンターを押す
KDP500121 REQUEST QUEUED (#00698).
DSPRINT 'AB9999.TEST.FORT77(PRG1)' PC03 NOTIFY EJECT
ENTER "COMMAND" OR HIT(RETURN) WHEN EXECUTE."NO" WHEN NOT EXECUTE
エンターを押す
DSPRINT 'AB9999.TEST.FORT77(PRG2)' PC03 NOTIFY EJECT
ENTER "COMMAND" OR HIT(RETURN) WHEN EXECUTE."NO" WHEN NOT EXECUTE
NO
READY

```

図 7. 3 プリンタ出力の選択例

例 3 フォートランソースプログラムのメンバ中の頭文字が PRG であるものを全てプリンタ出力するには以下のように入力する。

```
PR P/.FORT/PRG
```

例 4 TEST.FORT77 のメンバ中より頭文字が P で始まるものを選択し、さらにそのうちより PRG1 と PLOT のみをプリンタ出力するには図 7. 3 のように行う。

## 7. 6 PR. STATUS 機能

プリント依頼中のデータセット名を表示する。

入力形式は以下に示す。

```
DS PR.STATUS
```

あるいは

```
PR STATUS
```

例 プリント依頼したデータセットの表示をすると図 7. 4 のようになる。

## 7. 7 PR. CANCEL 機能

プリンタに出力依頼中のものをキャンセルする。

READY  
PR ST

NO : 00768 DSN : CC0190.TEST.FORT77 MEMBER : C  
NO : 00767 DSN : CC0190.TEST.FORT77 MEMBER : B  
READY

図7. 4 プリンタ出力依頼中のデータセット表示

入力形式を以下に示す。

DS PR.CANCEL [/KEY]

あるいは

PR CANCEL [/KEY]

KEY：プリント依頼中の一部をキャンセルする場合データセット名を認識するための文字列を指定する。省略時はすべてをキャンセルする。

注 プリンターの出力をキャンセルした場合は、現在出力中のものについては半ページ程度（1バッファ分）出力された後停止する。

例 すべてのプリンタ出力をキャンセルする。

PR C

## 第8章 CHELPコマンド（センタコマンドの使用法表示）

センタコマンドの使用方法を端末に出力する。なお、必要ならば最寄りのプリンタに出力する。  
入力形式を以下に示す。

CHELP KEY [PR(YES)]

KEYはコマンドを参照するための識別名を入力する。なお、\*を指定した場合はセンタコマンド名が出力される。PR(YES)を指定した場合は最寄りのプリンタに出力される。

例 CHELP \*と入力した場合は、図8. 1が表示される。

```
"COMMAND"      NAIYOU
CHELP          : "CENTER COMMAND" NO TOIAWASE
* CHELP KEY <PR(YES)>                                *
* PR(YES) O SHITEI SHITA BAAIWA MOYORI NO "PRINTER" *
* NI SYUTURYOKU SURU                                  *
F (FORT7CLG) : "FORTRAN" NO "COMPILE" KARA JIKKOU O OKONAU<NEXT:CHELP F>
B           : "SUBMIT JOB" NO SAKUSEI O OKONAU      <NEXT:CHELP B>
GDP         : "GRAPHIC DATA SETS" NO KENSAKU O OKONAU
ATF         : "ATF" NO BENRINA "COMMAND" GA ARU
FB          : "FORTRAN SUBMIT JOB" NO SAKUSEI O OKONAU <NEXT:CHELP FB>
D           : "USER , SYSTEM , CENTER PARAMETER" NO HYOJI<NEXT:CHELP D>
SOUDAN      : "ERROR CODE" NI TUI TE HYOJI SURU    <NEXT:CHELP SOUDAN>
DS          : "DATA SETS , DSPRINT" NO SYORI O OKONAU <NEXT:CHELP DS>
PR          : "PRINTER" SYUTURYOKU,TORIKESHI O OKONAU <NEXT:CHELP PR>
*** HYOJI CHU "<.,>" WA SYORYAKU KANOU,"|" WA SENTAKU O ARAWASU ***
*** HYOJI CHU "<NEXT:CHELP .,>" WA SHOSAI GA SANSYO DEKIRU MONO ***
```

図8. 1 CHELP \* の表示

なお、図中の<NEXT:CHELP...>は詳細について参照可能であることを示す。例えばC  
HELP DSと入力した場合は図8. 2が表示される。

図8. 2の中の<>は省略可能を表わし|は選択を表わす。

```

DS KI<...>
KI      : VTOC , COMP , DUMP|MEMBER , PR.D|PR.M , PR.C , PR.S , PR.P
*      "I" WA SENTAKU O "<...>" WA SYORYAKU KANOU O IMISURU      *
      ----- VTOC -----
DS V<TOC></P1>
* "DATA SETS" NO OOKISA , AKI YOBI "RECORD" JYOHOU NADO HYOJI *
* KUWASHIKU WA "CHELP DS/VTOC" DE SANSYO SEYO      *
      ----- COMP -----
DS C<COMP></P1>
* "DATA SETS" O SAISYOGEN NO OOKISA NI ASHUSHUKU SURU      *
* KUWASHIKU WA "CHELP DS/COMP" DE SANSYO SEYO      *
      ----- DUMP | MEMBER -----
DS D<UMP>|M<EMBER></P1</P2</P3</P4>>>
* "DATA SETS" NO "MEMBER NAME" YA NAIYO O HYOJI SURU      *
* KUWASHIKU WA "CHELP DS/DUMP" DE SANSYO SEYO      *
      ----- PR.D | PR.M ----- PRINTER
DS PR.D<UMP>|PR.M<EMBER></P1</P2</P3</P4>>>      ; TO NYURYOKU SHITE YOI
PR D<UMP>|M<EMBER></P1</P2</P3</P4>>>
* "DATA SETS" NO "MEMBER NAME" YA NAIYO O MOYORI NO "PRINTER" *
* NI SYUTURYOKU SURU ; "PARAMETER" WA "DS/PR.D" O SANSYO SEYO *
      ----- PR.C ----- PRINTER
DS PR.C<ANCEL></P1>
PR C<ANCEL></P1>      ; TO NYURYOKU SHITE YOI
* "DSPRINT" NI IRAISHITA MONOO "CANCEL" SURU      *
* KUWASHIKU WA "CHELP DS/PR.C" DE SANSYO SEYO      *
      ----- PR.S ----- PRINTER
DS PR.S<TATUS>
PR S<TATUS></P1>      ; TO NYURYOKU SHITE YOI
* "DSPRINT" NI IRAISHITA MONOO HYOJI SURU      *
      ----- PR.P ----- PRINTER
DS PR.P<RINT></P1</P2</P3>>> <PR(YES)>
PR P<RINT></P1</P2</P3>>>      ; TO NYURYOKU SHITE YOI
* "DATA SETS" O MOYORI NO "PRINTER" NI SYUTURYOKU SURU      *
* KUWASHIKU WA "CHELP DS/PR.P" DE SANSYO SEYO      *

```

## 図8. 2 CHELP DS の表示